

## チェックリストを活用した高品質米作り

### 現場レベルでの取り組み状況の調査

情報経営部 情報チーム TEL:022-383-8120

#### 研究の目的

GAPとは、Good Agricultural Practiceの頭文字で、直訳すれば「良い農業の実践」です。GAP手法は、食品の安全・安心や環境に配慮した生産を支援する手法として広く一般的に知られるようになってきましたが、本格的に導入している生産者は少数です。

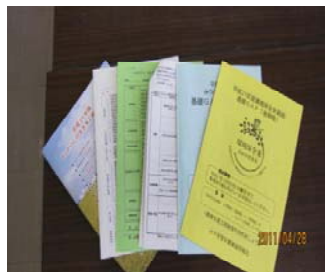
一方、年々米の産地間競争が激しくなり、環境に配慮した栽培方法や品質の向上等がよりいっそう求められる時代になりました。県内の米生産現場では、GAPの生産管理手法である「チェックリスト」を利用して米の生産活動を改善させる動きが広まっており、その取り組み状況を調査することになりました。

#### 研究成果

聞き取り調査の結果、県内14農協のうち、全出荷農家に「チェックリスト」の提出を求めている農協は10農協あることがわかりました。

導入のきっかけは、「取引先やバイヤーに勧められて」という回答が多く、いずれも「取り組まなければ米の取引をやめる」といったような強制的なものではなく、農協の担当者が取引業者とのやりとりの中で必要性を感じ、自主的な取り組みとして始まったようです。

各農協では、少しでも農家に対する負担を減らすため生産履歴関係書類の裏面にチェックリストを印刷したり、一連の書類を小冊子にまとめる等して生産者がチェックリストを提出しやすいように工夫したり、書いてもらったチェックリストを集めやすいようになる仕組み作りを考えています。この取り組みはスタートしてまだ日が浅いため、取り組みの目立った効果はでていませんが、「生産者が農薬の扱いや異物混入に以前より気をつけるようになった」「事故発生後の初動が確実に早くなった」等の効果を感じている農協もありました。



県内農協が独自で作成した  
チェックリスト等

一方、チェックリスト導入後の問題点として、担当者の事務負担又は資料印刷経費等がかかるといったものが多く挙げられました。

このようにチェックリストをつけて提出する行為は米の品質向上に良い影響を与えるものの、米の価格に転嫁させることは難しく、自主的な取り組みゆえ、生産者側に負担と感じられる面もあります。

#### 普及等の見込

明らかになった問題点等をもとに検討を重ね、県内の米農家にメリット感のある「宮城県版米GAP」を提案します。その後、様々な機関と連携しながら、GAPの推進を図っていく予定です。

**宮 城 県**  
**農業・園芸総合研究所**

宮城県名取市高舘川上字東金剛寺1番地

TEL: 022-383-8111(代表) FAX: 022-383-9907(代表)

ホームページ: [http://www.pref.miyagi.jp/res\\_center/](http://www.pref.miyagi.jp/res_center/)

E-mail: [marc-fk@pref.miyagi.jp](mailto:marc-fk@pref.miyagi.jp)(代表)